

閉会の辞

外国語教育研究センター長、教授
新多 了氏



○**新多** よろしくお願ひいたします。外国語教育研究センター、センター長の新多と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。本日のシンポジウムでは、中国語、ドイツ語、英語、日本語、それぞれの教育の取組の発表をしていただきました。閉会の辞ということで、様々な言語をつなぐキーワードとして、複言語主義の視点からグローバル・コンピテンスについて考えてみたいと思っています。【スライド⑦-1】

これは今年の8月に出来上がったばかりの外国語教育研究センターのロゴです。Foreign Language Education and Research の頭文字の FLER が埋め込まれています。右側の大きな R は立教の頭文字でもあります。この外国語教育研究センターは昨年4月1日に設立されたばかりで、まだ1年半の新しい組織です。英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、6言語の教員が所属しており、専任、特任、教育講師合わせるとおよそ100名の大所帯で、おそらく立教大学で1番大きな組織ではないかと思ひます。立教大学の全ての学生を対象とした外国教育を運営しています。また、150周年を迎える2024年に向けて新カリキュラムの開発を行っている最中です。

右にあるのが、昨年8月30日に開催しましたオープニングシンポジウムのポスターです。このシンポジウムのタイトルは「グローバル社会で『生き抜く力』を育てる外国教育」としました。ここには、私たちが日々教育を行ひながら考え続けている問いが含まれています。つまり、グローバル社会で生き抜く力とはどのような力なのかということ、また、その力を育てるために外国語教育は何ができるのかということです。これらの問いは今日のシンポジウムのテーマに深く関

連していると思います。今日、各言語の発表をお聞きしまして、この問いに対する様々なヒントをいただくことができました。【スライド⑦-2】

本日のテーマは「グローバル・コンピテンス」ですが、ここで改めて、「コンピテンス」とは何かということを考えてみたいと思います。コンピテンスは21世紀の教育では特別な意味を持った言葉でもあります。言語教育に限らず、OECDなどの様々な国際機関、あるいは先進的な教育を行っている学校はこのコンピテンスの育成を目的としています。コンピテンスと類似の言葉に「コンピテンシー」、「リテラシー」、「21世紀型スキル」などありますが、こうした「新しい能力」の基本的には考え方は共通しています。

代表的なものとして、OECDの定義は、「ある特定の文脈における複雑な要求に対して様々な心理的、社会的リソースを結集し、適切に対応する力」です。この「複雑な要求に対応する力」というと、いわゆる「地頭の良さ」を想像されるかもしれませんが、こういった認知能力だけではなく、今日の発表の中にも出てきました、「コミュニケーション」、「チームワーク」などの対人関係能力や、意欲・動機づけの人間特性や態度も含まれています。そうした様々なリソースを結集して、目の前にある複雑な要求に取り組んでいくという、ホリスティックで統合的な力がコンピテンスです。【スライド⑦-3】

コンピテンスは様々な教育を通じて獲得されますが、特に言語教育に関わるコンピテンスとして「複言語能力」が挙げられます。これは、「複言語主義」に基づく言語能力のことです。複言語主義はしばしば「多言語主義」と混同されます。両者は表面的には似ていますが、言語能力の捉え方が本質的に異なります。多言語主義とは、「社会において様々な言語を共存、尊重する態度」を意味します。例えば、日本社会では、日本語だけでなく、英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語など、様々な言語を話す人たちがいます。それぞれの言語使用、文化を尊重するという姿勢が非常に大事ですが、それぞれが孤立、独立し過ぎてしまうと、異なる文化間の交流が生まれにくい側面もあります。

多言語主義に基づく言語能力、つまり多言語能力とは、複数の言語が個人の中で独立して存在していると捉えることができます。ここでは、「何か国語を話せるのか？」という数が重要で、たくさん話せるほうが多言語能力が高いと考えられます。また、多言語能力はネイティブ・スピーカーをモデルに評価しますので、ネイティブの発音や言語使用に近い、ネイティブと自然なコミュニケーションが

できるかどうかなどが評価基準になります。いわば、「1人の人の中に何人のネイティブ・モノリンガルスピーカーがいるのか？」を暗に想定しているのが多言語能力です。

一方、複言語主義においては、個人の言語能力は様々な言語の部分的で複合的な能力の集合体と考えます。それぞれの言語は互いに影響を与えています。それぞれの言語能力は常に変化をしていて、決して同じレベルではないという特徴があります。例えば私の場合では、英語で発表したり論文を書いたり授業を行っています。日本語のように自由に使うことはできませんし、表現の幅も限られ、読み書きの時間も日本語よりもかかってしまいます。日本語でもスキルにおいてやはりばらつきがあり、書くことに比べると話すことは苦手とか、いろいろな違いがあります。

一方、スペイン語、中国語を少し学んだことがありますので、語彙など、断片的な知識があります。あと、フランス、ドイツ、ベトナムなど、旅行したことがある国では簡単な挨拶ができますし、文化的習慣もある程度理解しています。もし私の言語能力をネイティブ・スピーカーの物差しで計れば、日本語と、せいぜい英語の2言語だけになってしまいますが、実際にはその他の言語を学んだり経験したことも自分の言語能力の一部になっていることは間違いないと思います。

このように私個人の内部では、それまでに学び、使用してきた様々な言語が、複合的・複層的で、ユニークな複言語能力として形成されています。多言語主義が、あなたは何か国語を話せるのかという数の問題であったのに対して、複言語主義は、あなたは言葉を使って何ができるのかという質を問題にします。つまり複言語能力を育てる教育とは、言葉を使ってできること、いわゆる「can-do」を増やしていくことだと言うことができます。表面的に英語をうまく話せるかどうかという問題をを超えて、生徒・学生ができることを増やして自分のアイデンティティをつくっていく手助けをしていくことが大きな目的です。【スライド⑦-4】

学生の複言語能力を育てるためには、まず様々な言語が様々なレベルで使われている、様々な言語を様々な目的で学ぶ機会が提供されていることがとても大事だと思います。立教大学では様々な言語の教育が行われていますが、それぞれが学生のユニークな複言語能力を育てることに貢献しています。例えば私が担当する英語教育の目的は、英語を流暢に話せる人を増やすことではなくて、グローバル社会の中で生き抜くコンピテンス、いわゆる複言語能力を育てることにありま

す。そして、日本語と英語だけでも、複数の言語能力を持っているということになりますが、言語レパートリーが多ければ多いほど、個人の持つ複言語能力はより豊かになると言われています。

今後は、様々な言語教育同士の連携にも大きな可能性があると思います。本日のシンポジウムはその第一歩としてとても貴重な機会になりました。これをきっかけとして、また様々な形で日本語教育研究センターと外国語教育研究センターが協力して、大学全体の言語教育を発展させていければと思っています。【スライド⑦-5】

本日は長時間にわたり、ご参加いただきましてありがとうございました。【スライド⑦-6】

○任 新多先生、ありがとうございました。

それでは、これもちまして本日のシンポジウムを終了させていただきます。皆様、本日は長時間にわたりご視聴いただきまして誠にありがとうございました。

【スライド⑦-1】

閉会の辞

グローバル・コンピテンスとしての「複言語能力」

日本語教育センターシンポジウム2021
新多 了（立教大学外国語教育研究センター・センター長）

【スライド⑦-2】



RIKKYO UNIVERSITY
Center for Foreign Language
Education and Research



日本語教育
「グローバル社会で「生き抜く力」を育てる外国語教育」 甲谷 ムユル 都子
パネルディスカッション
「新しい学力観」×「英語教育」 小・中・高 英語教育現場の最前線

2

【スライド⑦-3】

「コンピテンス」とは？

<新しい能力> コンピテンス、コンピテンシー、リテラシー、21世紀型スキル・・・

コンピテンス：ある特定の文脈における複雑な要求に対して、様々な心理的・社会的リソースを結集し、適切に対応する力（OECD, 2005）

基本的認知能力
読み書き・計算など

対人関係能力
コミュニケーション、チームワークなど

コンピテンス

高度な認知能力
問題解決、意思決定など

人格特性・態度
意欲、動機づけなど

【スライド⑦-4】

「複言語能力」

多言語主義

- 何国語話せるか？
- ✓ 「量」の問題
- 「理想的なネイティブスピーカー」
- ✓ モノリンガル・コンピテンス

複言語主義

- 言語を使って何ができるのか？
- ✓ 「質」の問題
- 複合的・複層的で、ユニークな言語能力
- ≠ネイティブ・スピーカー

【スライド⑦-5】

まとめ

- 外国語教育共通の目的—複言語能力の育成
- より多くの言語・文化を経験—複言語能力はより豊かに
- 言語間の有機的連携
 - ✓ 日本語 x 英語 x 言語B



日本語教育センター



RIKKYO UNIVERSITY
Center for Foreign Language
Education and Research

【スライド⑦-6】

Thank you!

